

## 今月のコラム

### 早期の事業継承は良かった？

(有)角田ナーセリー専務 角田ミサ子



多くの方に尋ねられます。

「上手く継承している？」という問いと「あなたはどのようにしている？」という意味とに勝手に解釈して返事をしていますが、そもそも「若いのにかわいそう」とか「経営ノウハウは会得しているの？」といった質問は全くありません。殆どが「よく手放せたね！」です。消費低迷のなかで、前社長との方針の食い違いが、現場の混乱を招いていた状況から、方針の一本化と、空気を一新して社員の士気を高めようと思ったら、海外・国内研修はしたけれど入社（04年）4年でしかない息子の実力を判断する間もありませんでした。つまり熟考の末の継承ではなかったのです。

唯一、強力な判断材料は「自分も見よう見まねで食いついてきた経験が積み重なってノウハウになった」点です。継承者に意志があり、努力の原動力が、自分と社員の生活を支える、という視点であれば、そしてそこに経営経験者のサポートがあれば、あとはなんとかなる。もちろん（継承）サポートセンターのいう「後継者の候補者を見つけ、その候補者を育成し、徐々に経営権を移していく」といった計画的な移行が正解なのでしょうが、まった無しもありだろう…と。

常々継承者側から聞くことは、先代と後継者の意志疎通の悪さです。定番のようですね。小さな法人でも山と有る継承内容、経営理念から始まり経営ノウハウ・自社株式と事業用資産等々はそもそも意思の疎通がなければ継承できる物ではありませんね。さらに農業の場合、投下資本に対する利益率が過酷です。中途半端な意志では山を一つ越しても、次の山は登れないでしょう。初代が積み上げた時と同じような楽しさを味わってこそ、継続と発展の意志が生まれると今でも思っています。

角田の場合、ラッキーなことに、私心無しに改善を是とする先に見える経営経験者に会いました。息子が素直に何でも問える対象です。そして危険な3年は越えました。M&Aや従業員への継承も考えていた7年前から考えると隔世の感があります。あとは自社株や事業用資産をうまく後継者へ集中させること、さらに遺留分への配慮も考えなくては。次男も生き生き生活する方向付けも重要と思っています。

忘れていました。自身のその後は…これほど良い身分はありませんね。

決定権はなくても産み育てた会社がどう育つかを見ながら、構築できていない部門を原型だけでも作りあげ引き渡す、これがこれからの楽しみな仕事と思っています。

最後に…、引き継いだ息子もは最近は一歩一歩階段を上る作業を楽しんでいる風に見えますが、どうでしょうか。



カエデ  
kaede

## 都心における壁面緑化、菜園見学会

### 最新の緑化を22名が学ぶ

近年、壁面緑化の施工例が増加しています。従来はつる性植物を登はんさせた、時間をかけた緑化が主でありましたが、近年は壁面に緑化用の基盤を設置する緑化、壁面にコンテナを設置し長尺つる性植物で緑化する手法が普及しています。

また屋上緑化では、菜園、水田等栽培を伴う緑化が求められてきており、今回は壁面基盤型、壁面コンテナ型、壁面を修景的に装飾した事例と、屋上水田、人工地盤菜園、室内菜園を見学しました。

秋晴れの暖かい11月25日午後、東京駅から数分の三菱一号館広場に22名が集合。藤田理事（緑花技研）の今回の見学会開催についての挨拶のあと、円柱壁面緑化を施工・管理している日本地工（株）の小川さんより説明を受けました。庭園は人工地盤上にあり、高木も薄層土壌で植栽されています。3本の円柱壁面緑化は、基盤に植え付けた植物を壁面に取り付けて緑化しています。ハーブなどうまくいわず植え替えたものもあるが、ほぼ順調に推移しているそうです。

新丸ビル駐輪場の壁面緑化、JAビル・経団連ビル屋上庭園、北側壁面緑化については、藤田理事より、またビルの谷間の人工地盤で江戸野菜を栽培し始めた菜園は、小林さん（緑花技研、カエデ2011年10月号紹介）よりそれぞれ説明がありました。

パソナでは、バラによる修景の壁面と室内で米や野菜を生産している菜園を、パソナ担当者から説明を受けました。通常は見学不可のバルコニー内側も、見学させて頂きました。

見学会後には別会場に移り、情報交換・懇親会を行い、交流を深めました。



植栽樹(コンテナ)を2段に使ったJAビル・経団連ビル北面の壁面緑化



パソナの壁面緑化。各階のバルコニーにバラ、フジ等を植栽樹(コンテナ)で栽培している



ビル間の人工地盤上で江戸野菜を栽培している菜園



円柱壁面緑化を指しながら見学会の趣旨説明をする藤田理事(右)。三菱一号館庭園



パソナ担当者から室内菜園について説明をうける。稲束は室内で栽培され、本年3月はじめに収穫されたもの、天井にはキウリがなっている。'社産社消'社内の食堂で昼食などに



新丸ビルの駐輪場壁面緑化。ヘデラなど3種類を使い単調になりやすい緑化を工夫している。



水田や小川の流れ、里の緑など里山をモチーフにしたスカイガーデン。JAビル・経団連ビル屋上





カエデ  
kaede

## あわじアルチザンフェスティバル「空宙百華園」

### 100の庭で提案、奇跡の星の植物館

花文化ジャポニズムを提案する奇跡の星の植物館（兵庫県淡路市夢舞台、辻本智子プロデューサー）では、通年イベントの中でもっとも趣向を凝らす秋の特別展を開催した。今回は「夢コレクション2011ーあわじアルチザンフェスティバル」と題し、100を超えるオーガニックな庭が登場する「空宙百華園」と題するフラワーショー、ハンギングバスケットコンテスト、「左官」「鬼師」等の「伝統の技」、そして自然との共生から生まれた淡路の伝統産業のまちをめぐる「アルチザンオープンガーデンツアー」などから構成された。  
<http://www.kisekinohoshi.jp/>



ジャパネスクガーデン フラワーショースペースにおいて、日本の伝統的空間デザインと伝統工芸・技を生かしてデザインし、花文化ジャポニズムをいかに表現

## 盛り上がるフラワーバレンタイン

### 鉢物の商品カタログ作りも進む

今年2月から始まった、業界統一キャンペーン、フラワーバレンタインは、2年目を迎え盛り上がってきている。フラワーバレンタイン推進委員会内部組織で、11月に発足した鉢物バレンタイン普及会（会長、西川勲日本花き卸市場協会鉢物部会長）は、主要鉢物花き市場等が中心となり、全国の生産者に鉢物のバレンタイン商品の生産出荷とバレンタインを盛り上げるために参加加入を呼びかけたところ、たちまち十数社が鉢物バレンタイン商品の生産出荷を表明。これらの商品の多くは、グリーン情報「ガーデンセンター」1月号の「鉢物バレンタイン」特集に掲載される予定で、「鉢物バレンタイン商品」カタログ作りが進められている。

今回の市場関係者の積極的な意気込み、取組みで、2月のバレンタインは統一タグをつけた鉢物商品で盛り上がりそうだ。  
<http://www.flower-valentine.com/>



## 会員紹介

### 用途いろいろマーガレット

関西支部の山崎花卉園芸です。

春にはマーガレットを作っています。

今更マーガレット!? と、よく言われますが、近年用途が増えてきているような気がします。

春先の花壇から始まり最近流行の卒業式の手提げ籠や卒業・入学の花道、母の日のプレゼントには単品の大鉢から、寄せ籠の添え花等といろいろと使い道が増えてきているようです。

花の管理も簡単で、春の間は次々と花が咲き続けるので使いやすいと言われます。

幼稚園の先生に教えてもらったのですが、子供が花の絵を書くときに一番多く書く花の形らしく「花らしい花」として子供がすごく喜ぶそうです。ありがたい事に卒園式の注文もかなり増えてきました。

「そんな事ないやろ～」と思われたあなた！ 一度だまされたと思って試してみてください。

きっと子供達は可愛いマーガレットを書いてくれると思います。

私もそれに負けないくらいの可愛いマーガレットを作れるようにがんばります。

山崎花卉園芸 兵庫県加古郡稲美町六分一 1362-25





カエデ  
kaede



## マーケットの変化に対する危機意識と

### 新たな取り組みへのチャレンジ

日本ポリ鉢販売（株） 夏目嘉久



弊社は農業資材分野でのポリ鉢、トレー等を中心に製造販売しています。苗の生産ライン機器ではポットングマシン、播種機、トレーにポットを詰める機械等を製造販売しています。また、一部植物等も販売させていただいております。

#### 「マーケットの変化に対する危機意識」

当たり前のように、マーケットは生き物であり、大きくなったり、小さくなったりしています。その環境にどのように対処をし、変化をしていくか。当たり前のように出来る事が理想であり、誰もが思っていることです。しかしながら、なかなか出来ないのが現実。

各自がいかに共通の危機意識を持ち、対処ができるように成長していくか。変化できるか。そのスピードが会社の成長を作り上げる源のように考えています。

各自がどのように変わっていくか？ 成長していくか？ それに合わせて会社としてなにか出来るのか？皆で見つけて出して、人の成長、会社の成長を願って日々奮闘し進めております。

#### 「新たな取り組みへのチャレンジ」

上記のような考え方のもとで新たなチャレンジとして、オーダーメイド分野への挑戦を始めました。小物のプラスチック商品の開発（OEM）生産。また、今回シートハウス事業の展開等新たな事業へのチャレンジを始めました。

当然、スタート段階での失敗はつきもので、七転び八起きで進めております。人があって初めて何事も出来ます。「人は企業の財産」的な考え方で進めております。

少数で最大限の効果を生み出すため、情報の共有化、各自の多面的なかかわり方等、それぞれが複雑に絡み合っております。まだまだ、失敗の連続です。

お互いが、お互いを思いやり、面白くもあり、おかしくもあり、厳しくもあり、一步一步地に足をつけ、各自が大きく成長をし、企業も成長することを願って、日々葛藤を続けております。

大きく変化している、このマーケットの中で何が出来るのかを、しっかり見つけ出しコツコツ前へ進んでいき、素早く対応ができる企業を目指して行きます。

今後も宜しくお願いいたします。



## 生産者部会より

### ポインセチア仕立て物の楽しみ方

クリスマスシーズンが近づいてきました。このシーズンになるとポインセチアが街を彩る季節になってきます。

市村花卉園では、通常のポインセチアの形ではなく、様々な形で生産しております。その中でも自信を持ってオススメするのが【イチバンタワー仕立て】です。

この仕立ての特徴は、高さ約80cm、円柱状そびえ立つ迫力のあるポインセチアです。無機質なクリスマスタワーに飾り付けをするのも魅力的ですが、生花の持つ迫力、なにより育てる楽しみを実感できる一品です。

丹精をこめ、何回も何回も手をいれ、愛情をいれて作ったポインセチアです。

ぜひお楽しみください。

市村花卉園

